



バッハの森通信

第 159 号

2023 年

4 月 20 日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699

e-mail : info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森



バッハが響く奏楽堂

普遍的な深い感動を求めて

バッハの森は 1985 年に創立されました。J. S. バッハの生誕 300 年を記念して、世界中で祝賀の催しが開かれた年です。ただし、これは全く偶然の巡り合わせでした。2008 年に亡くなったオルガニスト、石田一子の長年の夢とそれを実現するために彼女が両親から相続した全遺産を提供したこと、それに創立 5 年前にバッハのカンタータを歌うことを目的に結成した筑波バッハ合唱団の活動を続けてきた結果が、この年のバッハの森の創立になったのです。

しかし、今、私が語りたいのは、40 数年前に遡る創立時の回顧ではありません。創立目的に沿って建設された記念奏楽堂とパイプ・オルガンが、さらに多くの方々に活用していただくためにはどうしたらいいか考えるための参考として、これまでの活動と経験したことを報告しましょう。

* * *

よく誤解されるので最初に断ると、バッハの森は教会ではありませんし、宗教団体でもありません。教会音楽をテーマにする市民の文化団体です。研究会、コンサートなどを開きますが礼拝も伝道活動もしません。だからと言って、教会の宗教活動を否定しているわけではありません。現在、バッハの森で活動している会員の中には、日曜日にはそれぞれの教会に通っている人たちもいます。

記念奏楽堂は、建造を約束してくれた名工ユルゲン・アーレントのオルガンが最もよく響くことを追求した結果、伝統的な教会風の建物になりました。最初にバッハの森を訪ねて来たとき、奏楽堂のたたずまい

と素晴らしい音響に感動したアーレントさんが、その場に立って、設置するオルガンのスケッチを始めたことを覚えています。その上、バッハのコラール編曲を弾くためのオルガンが欲しい、という一子の注文を快く引き受けてくださいました。この奏楽堂とオルガンは、オーダーメイドなのです。

先日、初めてバッハの森の記念奏楽堂で演奏したヴァイオリニストが、その響きに驚き、これまで多くのコンサートホールで演奏してきたが、このような素晴らしいホールが日本にあることを知らなかった。この奏楽堂は創設者の意図が伝わってくる建物ですね、と嬉しいコメントをしてくださいました。

* * *

ではこの奏楽堂で、どのような活動をしてきたでしょうか。バッハの教会カンタータを中心テーマに、残念ながら自分たちで演奏できたのはそのごく一部ですが、コンサート、セミナーなどを積み重ねてきました。バッハの音楽の“欠点”は、演奏するのが難しいことです。カンタータが、ルターからバッハまでの 200 年間に歌い継がれてきた民衆の讃美歌、コラールを基礎とすることから、コラールを原語ドイツ語と日本語訳で歌い、コラールのオルガン編曲を学びました。それにバッハ以外の作曲家たちのミサ曲をラテン語で歌ってきました。

最後に、一子と私が経験した特殊なエピソードを報告しましょう。私は 40 代半ばまで 14 年間、エルサレムのヘブライ大学で古代ユダヤ史を学んでいました。最後の 4 年間、以前から知り合っていた一子がエルサレムに来てくれて結婚しました。彼女はドイツ教会のオルガニストになると、教会で定期的な教会音楽コンサートを始め、もっぱらバッハを演奏しました。するとそれまで教会には絶対に来なかったユダヤ人市民がどっと集まりました。バッハの音楽が、キリスト教徒嫌いのユダヤ人を教会に招いたのです。この経験がバッハの森の原点の一つになったことは間違いありません。(石田友雄)

感動を共有する喜び

音楽を通して聖書を理解して

去る3月19日にバッハの森では「春の教会音楽セミナー：受難・復活を準備する」が開催されました。私は、かつてはバッハの森クワイアのメンバーとして、楽しく活動させていただいておりましたが、子育てと県外への引っ越しのため、長いことバッハの森の活動に参加することができませんでした。今度、3月の連休をつくばで過ごすことになったため、子どもを夫に預け、久しぶりにゆっくりバッハの森のプログラムに参加することができました。申し上げたように私はクワイアのメンバーでしたが、もともとは音楽に興味があったわけではなく、バッハの森に通うようになったのは、私が求めていた聖書を学びたいという気持ちからでした。

聖書への興味は高校時代に遡ります。物理の先生が「科学の進歩とキリスト教は密接に結びついている」と話しているのを聞いて、図書館で聖書を借りて読んでみましたが、さっぱり意味が分かりませんでした。大学に入ってから、教会の聖書を読む会に参加してみましたが、宗教の教えとして聖書を読むことに違和感を抱き、すぐに止めてしまいました。その後、就職してつくばに引っ越してきたのをきっかけに、バッハの森を見つけたのです。「歴史書として聖書を読み解く」という読み方、それがまさに私の求めていたものでした。聖書入門を受講したことがきっかけで、声をかけていただき、クワイアにも参加しました。そこでは「音楽を通して聖書を理解する」という新しい気づきがあり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。音楽にも聖書にも特別な素養のない私でしたが、セミナーやコンサートに参加するたびに感動を味わいました。この感動を少しだけでも皆様と共有したいと思い、このレポートを書いています。

典型的な日本人として育った私にとって「受難・復活」は非常に難解なテーマです。今回のセミナーは聖書、或いはバッハのカンタータから一段落朗読されるごとに、その箇所が何を語っているのか短い解説があり、その箇所をコーラルの斉唱、或いは合唱で締めくくるといった構成になっており、難解なテーマを分かり易く伝えようとする友雄先生の工夫を感じました。こうして何回も声を出してコーラルを斉唱したことか

ら、その箇所の心情を感じ取ることができたように思いました。例えば、コーラル「血潮と傷と痛みで満ち」の全8節をじっくり斉唱することで、まさに「十字架上のイエス」を想う気持ちを共有しているように感じました。その後で朗読された「成し遂げられた、苦しみは終わった」の言葉には強く心に響くものがありました。続いて「天の王よ、歓迎いたします」の解説の後、ろばに乗ってエルサレムに入って来られたイエスを民衆が歓迎する宗教画がスクリーンに映し出され、同時に“Himmelskönig, sei willkommen” (BWV 182 / 1~2) の演奏をCDで聴いていると、この合唱をクワイアの一人として歌った記憶が鮮明に蘇ってきました。また皆さんと一緒に合唱したいという気持ちになり、感動を共有することは人生を豊かにすると改めて実感しました。

ところで、セミナー前日、「歴史書・聖書入門」のプログラムにも久しぶりに参加しました。過去に学んだことを思い出しながら、聖書の新しい側面を学ぶことができ、頭の体操にもなり、とても満たされた気持ちになりました。バッハの森は「音楽を通して聖書を理解する」ことができる貴重な場所です。友雄先生、メンバーの皆様、今回も感動を与えてくださり有り難うございました。(鈴木真粧子)

* * *

ハンドベルの楽しみ

記念奏楽堂の豊かな響きに包まれて

去る4月1日に、初級のハンドベル体験会「歌ってみよう、鳴らしてみよう、ハンドベル ～ 親子での参加大歓迎」を開きました。小学校1年生と2年生の子どもをつれた4組の親子と飛び入り参加の2名、計10名の方々が集まりました。これは、バッハの森記念奏楽堂の素晴らしい響きを、ハンドベルを通して体験していただくという企画でした。

今から14年前に亡くなった、バッハの森の創業者でオルガニストの一子先生から、私はハンドベルの手ほどきを受けましたが、彼女は手にしたハンドベルをカーンと一音鳴らして、よくこうおっしゃいました。「ほら、こんなにいい音がするでしょう」。それは記念奏楽堂の高い天井のさらにその先に広がる大空に

向かって、どこまでも吸い込まれて昇っていくような響きでした。私は今になって一子先生の何気ない一言が、どんなに深い意味を持っていたか、はっと気付かされ続けています。

バッハの森には、きれいなもの、美しいものが沢山詰まっています。中でも記念奏楽堂は素晴らしい空間です。まだバッハの森に一度も来たことのない方は、是非一度足を踏み入れてみてください。そして、ハンドベル、パイプオルガン、合唱などの空に吸い込まれるような豊かな響きに包まれる経験を味わっていただきたいのです。

今回は、プログラム構成から申し込み者への対応、楽譜になじみがない子のための音符カードの作成まで、すべてにわたってバッハの森クワイアの指揮者、比留間恵さんが協力してくださったので、準備万端ととのえて臨むことができました。前半は恵さんの指導により、音符カードを用いながら手拍子でリズムをとり、ドイツ民謡「山の音楽家」を何回も繰り返し歌い、この音は五線のどの位置にあるかなど、楽譜の規則を分かり易く教えて、子どもたちを導いてくださいました。

このようにして楽譜の基本的な読み方が分かったところで、後半はハンドベルの基本的な鳴らし方から合奏まで、私が担当しました。大人の方には大きめの2つのベル、子どもたちには小さめのベル1つを持ってもらって、まず「じゃんけんぽんで鳴らすよ」とか「ベルに一杯はいつている水をこぼさないようにイメージして」などと、ハンドベルを鳴らす際のコツを体得してもらってから、今歌った「山の音楽家」の演奏に挑戦しました。最初、子どもたちは、私の合図を手がかりにベルを振っていましたが、慣れてくるとそれぞれ楽譜を見ながら、自力でベルを鳴らし始めました。こうして子どもたちが鳴らすメロディーを、大人の方たちは大きなベルで下支えしました。驚いたことに、一寸練習しただけで、これら複数の人たちが鳴らすベルの音が、バシッと合うようになったことです。演奏する者たちが皆で息を合わせて音を合わせることは、決して易しいことではなく、ハンドベルの演奏に際して目指すべき難易度の高いことなのです。このようにいい流れで30分ほど練習してから、総仕上げの演奏にとりかかりました。「山の音楽家」の楽しい雰囲気を出せるよう気合いを入れ直し、ちょっぴり緊張して臨みました。

結果は素晴らしい演奏になりました。音楽が自然に流れ「山の音楽家」の歌が聴こえてくるような演奏でした。初歩から始めた1時間足らずの練習でこのよう

な見事なハンドベルの演奏が完成したことに、びっくりすると同時に感謝の思いで一杯になりました。参加者の皆さん、有り難う！

息を合わせ、心を合わせ、「みんなで音楽を創りあげる」喜びを、この響きの豊かな記念奏楽堂で続けていきたいと願っています。美しいものを美しいと感ずることができる澄んだ心を大切に抱きながら。

(別所香苗)

* * *

きれいな音楽になりました

4月1日に、ハンドベルたいけんかいに参加しました。私はリンガーズに入っているので、3本のベルをすることになりました。むずかしいところでもみんなできようりよくしてきれいな音楽になったので、さいごにはけいたいでもろく音しました。わたしはちょっとまちがえてしまいましたが、いろんな音があつてきれいにきこえました。

たいけんかいにきてくれた人たちがハンドベルにきょうみをもって来て、バッハの森でいっしょにハンドベルをならってくれたらうれしいです。

(秋山明日美・小学校3年生)



日誌 (2023 1. 1～3. 31)

1. 14 **運営委員会** 参加者 5 名 (R1)。
2. 2 **打ち合わせ** オブレヒト音楽院発表会 (2023 年 4 月 2 日)、オーケストラ・ユヴェナリス コンサート (2023 年 4 月 12 日) のため、武澤秀平氏とバッハの森より 1 名。
2. 4 **打ち合わせ** 古楽金管・合唱セミナー発表会 (2023 年 5 月 5 日) のため、西野潤一氏とバッハの森より 1 名。
2. 2 **リードオルガン調整** 日比野四郎氏とバッハの森より 1 名。
2. 9, 12, 14, 15, 16, 19 **植木剪定** 鈴木造園。
2. 20, 21 **外壁塗装** 鈴木造園。
2. 25 **運営委員会** 参加者 5 名。
3. 10 **朝のオルガン音楽鑑賞会** 参加者 24 名。
3. 18 **一般財団法人バッハの森・理事会** 参加者 8 名。
3. 19 **春の教会音楽セミナー「受難・復活を準備する」** 参加者 20 名。
3. 20～27 **春期休館**
3. 31 **打ち合わせ** 古楽金管・合唱セミナー発表会 (2023 年 5 月 5 日) のため、西野潤一氏、海老原敦氏、濱崎恭美氏とバッハの森より 1 名。

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ コラール・カンタータ入門

カンタータ : J. S. バッハ

「イエスは 12 弟子を呼び寄せて言われた」(BWV 22)

「見よ、私たちはエルサレムへ向かって上る」(BWV 159)

コラール : P. ゲルハルト「血潮を傷と痛みに満ち」

P. シュトックマン「主の苦しみと痛みと死は」

オルガン :

1. 21 笠間きよ子。参加者 7 名。
2. 4 金谷尚美。参加者 6 名。
2. 18 安西文子。参加者 8 名。
3. 4 別所香苗。参加者 8 名。

学習コース

- バッハの森クワイア 1. 14/12 名、1. 21/10 名、
1. 28/10 名、2. 4/9 名、2. 18/11 名、2. 25/10 名、
3. 4/11 名、3. 11/11 名、3. 18/11 名。

- オルガン音楽研究会 1. 13/9 名、1. 27/8 名、
2. 4/9 名、2. 10/雪のため中止、2. 24/9 名。
- オルガン・クラブ 1. 20/3 名、2. 3/3 名、2. 17/2 名。
- 歴史書・聖書入門 1. 14/7 名 (R1)、1. 21/7 名 (R2)、
1. 28/5 名 (R1)、2. 4/7 名 (R1)、2. 18/6 名 (R1)、
2. 25/6 名 (R1)、3. 4/7 名 (R1)、3. 11/6 名 (R1)、
3. 18/8 名 (R1)。
- ハンドベル・クワイア 1. 21/5 名、1. 28/5 名、
2. 18/5 名、3. 4/5 名、3. 11/5 名。
- ハンドベル・リンガーズ 1. 22/9 名、2. 19/11 名、
3. 12/9 名。
- オルガン・レッスン 1. 27/2 名。
- オルガン・クラヴィコード・チェンパロ練習
1. 11/2 名、1. 12/1 名、1. 13/1 名、1. 18/1 名、
1. 20/3 名、1. 21/1 名、1. 26/1 名、1. 27/2 名、
1. 31/1 名、
2. 2/1 名、2. 3/3 名、2. 4/1 名、2. 7/1 名、2. 9/1 名、
2. 10/1 名、2. 14/1 名、2. 15/1 名、2. 16/1 名、
2. 17/2 名、2. 18/1 名、2. 21/1 名、2. 23/1 名、
2. 25/1 名、2. 28/1 名、
3. 2/1 名、3. 3/1 名、3. 4/2 名、3. 7/1 名、
3. 8/1 名、3. 9/1 名、3. 10/2 名、3. 11/1 名、
3. 12/1 名、3. 14/1 名、3. 15/1 名、3. 16/2 名、
3. 17/2 名、3. 19/3 名、3. 28/2 名、3. 29/1 名、
3. 30/2 名。

寄付者芳名 (2023.1.1～3.31)

一般寄付

下記の方々から計 51,500 円のご寄付をいただきました。
比留間恵、募金箱。

建物維持積立寄付

下記の方々から計 97,000 円のご寄付をいただきました。
山口みどり、安積源也・和子、小坂橋又久、
大和久一吉、住田真理子、宮田照美・光、今野和子、
関佑子、清水良子、平賀啓二郎・邦子、
小関利紀也・旦子、浪川幸彦、横田博子、
塚越多恵子、西澤節子、渡辺恵子、宮本耕一、
木田みな子、榎本敬子、角井良子。